

2 佐山・真木野などの板碑調査と 八千代市日蓮宗地域の有刻板碑の集成

蕨 由美

はじめに

中世の歴史を解明するための資料として、金石文、特に板碑の把握が重要である。

八千代市の板碑については、『八千代市の歴史 資料編 原始・古代・中世』（注1以下『市史』と略す）にデータがまとまって載っているが、銘文のみで拓影はない。

八千代市立郷土博物館には、当会の故村田一男顧問が寄贈した板碑の拓本と、村田顧問が収集した板碑や所蔵者から寄託された板碑や発掘調査出土の板碑があるが、文献データ（注1）・拓本・板碑実物が不一致のもあり、資料活用が困難な状態であった。当会ではこの度、市内の板碑の集成を目標に、博物館と共にこの照合整理作業を行っている。

今回は、当会で調査研究中の佐山・真木野および、隣接した小池・平戸の板碑の現地調査を行い、さらに博物館蔵の小池・平戸台の板碑と拓本を実見し、得られたデータをまとめ、八千代市内板碑のうち、日蓮宗地域の全有刻板碑の集成を試みた。

調査は八千代市立郷土博物館の常松成人氏、当会の畠山隆・菅原賢男会員で行った。

また現地調査では、佐山妙福寺ご住職・小池妙光寺ご住職・平戸の染谷家・真木野の区長様にご協力をいただき、翻刻については、房総石造文化財研究会会長の早川正司氏と板碑研究者の野口達郎氏にご指導をいただいた。これらの関係者の皆様には厚く御礼申し上げます。

なお今回調査した板碑はすべて武蔵型で、「No.」は、「八千代市有刻板碑一覧表」の番号である。

1. 佐山妙福寺の板碑の調査

2022年10月25日、佐山妙福寺庫裏にて板碑4基を調査した。この4基については、『市史』（注1）に翻刻データが記載されているが、①の完形板碑を除く3基の断碑の拓本がなかったので、今回改めて4基の拓本を採った。

① 題目（一塔両尊と二神）板碑 No.17 完形 明應七年（1498）年銘 55×22cm

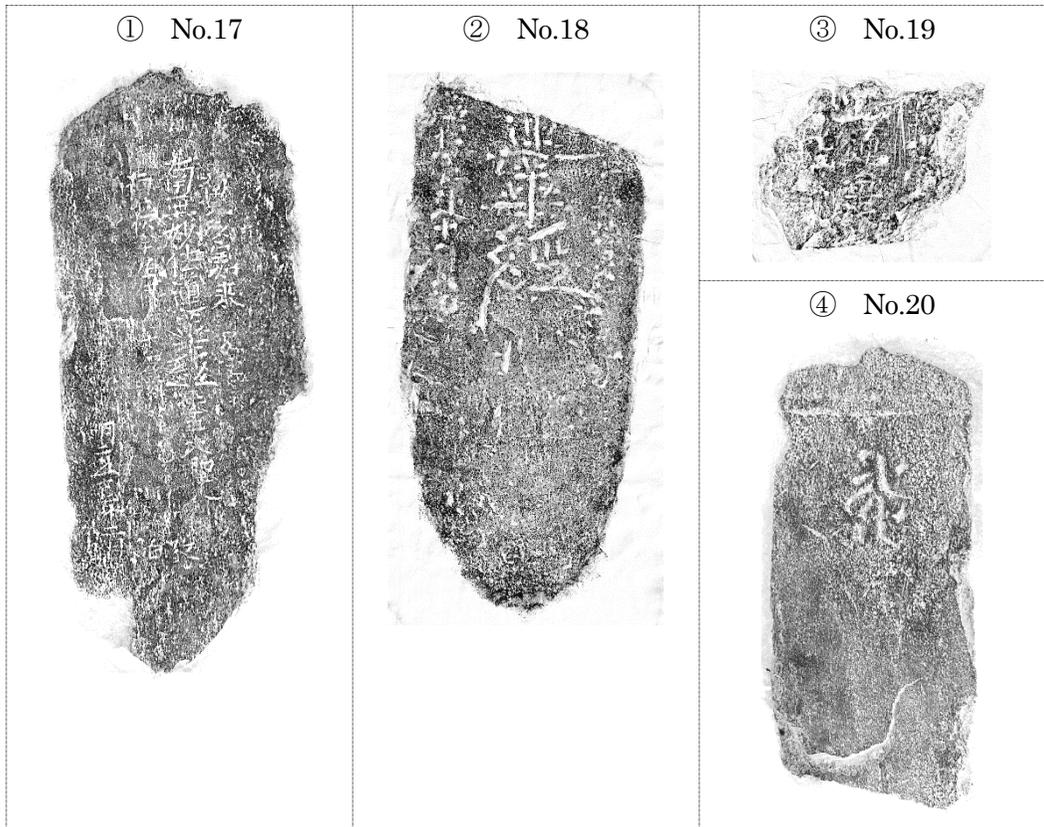
「南無妙法蓮華經」の題目の下に、「法主大聖人」（日蓮上人）、脇侍に多宝如来・釈迦牟尼佛の両尊と、鬼子母神・十羅刹女の二神を配する。鬼子母神と十羅刹女は、ともに鬼女であったが、仏の説法により改心した法華經の守護善神で、子授かり安産子育てを祈願する女性の信仰が篤い。

② 題目（一遍首題）板碑 No.18 断碑「蓮華經」「爲妙法靈也」銘 49×21cm

③ 題目（一遍首題）板碑 No.19 断碑「蓮華」銘 17×19cm

④ 種子（阿弥陀一尊）板碑 No.20 断碑 43×19cm 二条線と種子キリークが残る。佐山が日蓮宗に改宗される以前の板碑であろう。

図1 佐山妙福寺の板碑拓影 (縮尺 1/75)



2. 小池妙光寺の板碑の調査

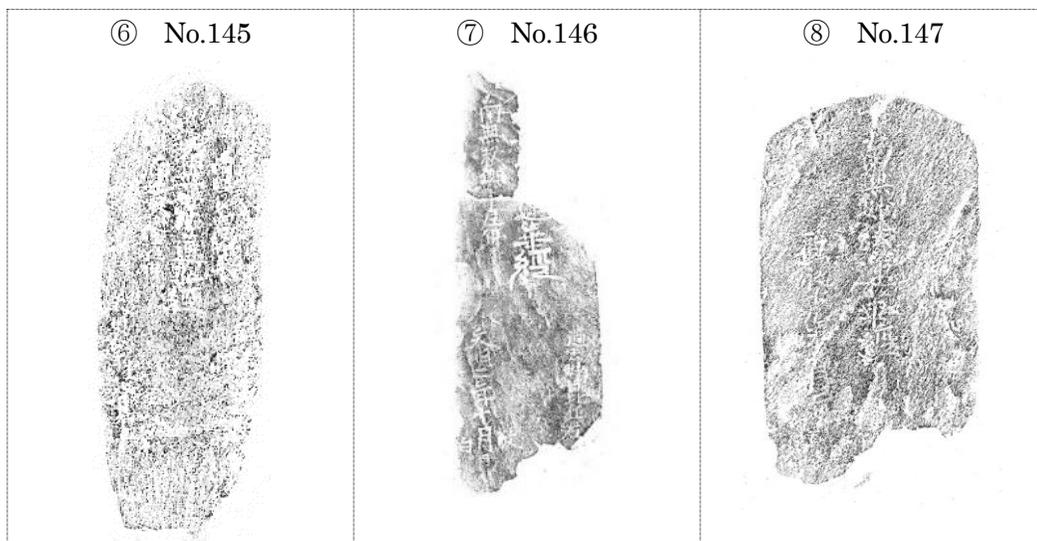
2022年12月8日、小池の妙光寺の板碑を調査した。

段ボール箱に納められて本堂の床下にあった板碑を取り出して、本堂の階段に並べ、水洗いし、計測、写真撮影をした。板碑は全部で15点、うち4点が有銘、ほぼ完形の無銘が4点、無銘の断碑(破片)が7点で、全て『市史』(注1)にない板碑であった。

有銘板碑のうち1基⑤は、十界曼荼羅の題目板碑で、これは館蔵拓本の資料名称が確定していたので、「市史に記載のない板碑」として『史談八千代』第47号に報告(注2)したものである。他の3基は紀年銘があり、館蔵拓本資料名が他所の板碑に誤記されていた拓本3点の板碑と判明した。

- ⑤ 題目(十界曼荼羅)板碑 No.144 完形 延徳4年(1462)銘 54×16cm
翻刻と拓影は『史談八千代』第47号(注4)に掲載
- ⑥ 題目(首題両尊)板碑 No.145 完形 文明5年(1473)銘 45×15cm
- ⑦ 題目(首題両尊)板碑 No.146 断碑 文明2年(1470)銘 41×14cm
- ⑧ 題目(一遍首題)板碑 No.147 断碑 応永29年(1422)銘 37×18cm

図2 小池妙光寺の板碑拓影 (縮尺 1/75)



3. 平戸の染谷家の板碑の調査

2022年12月15日、平戸の染谷家墓地の板碑⑨を調査した。これは『八千代の歴史資料編』(注1)に記載がなく、『同 通史編』(注3)の一覧表Z欄に題目板碑1件として数字のみの記載で、詳細も所在の有無も不明の幻の板碑であった。屋敷内の先祖の墓地のコンクリート上に並べて固定された墓塔群の中にあり、苔を洗い落として、拓本を採ると、秀麗な髯文字の題目と如来・諸天の銘が浮かび上がってきた。左端が欠けていて、紀年銘は不明であったが、十界曼荼羅の題目板碑であった。

⑨ 題目(十界曼荼羅)板碑 No.137 断碑 紀年銘欠 49×30cm。題目と多宝・釈迦如来、四天王、鬼子母神・十羅刹女に不動明王と愛染明王の梵字の曼荼羅を刻む。

4. 真木野の板碑調査

『八千代の歴史資料編』(注1)には、真木野の板碑として、妙徳寺の正応6年(1293)銘と年欠の種子(キリク)断碑2基と、神明神社の永仁2年の蓮座のみの断碑の計3基のデータが載っている。

2023年1月21日に妙徳寺ご住職に2基の所在をお伺いしたところ、現在不明とのことであった。館蔵の拓本を探したところ、他所の資料名の拓本の中に正応6年銘の断碑拓本があり、真木野妙徳寺板碑の1点⑩と判明した。正応6年の年銘は市内最古である。

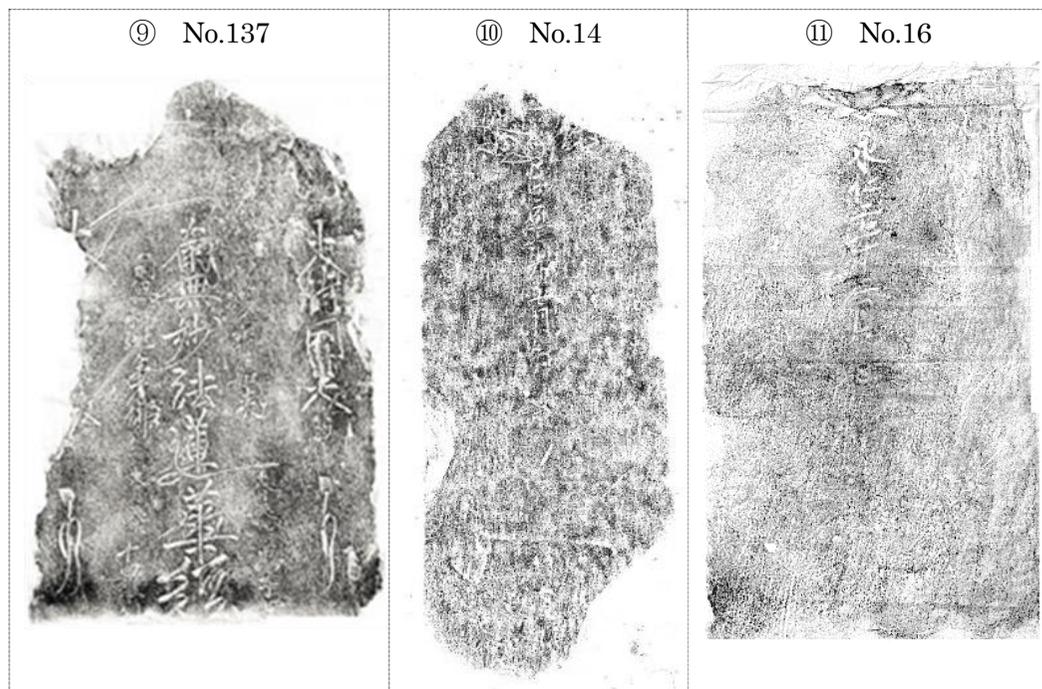
2023年2月8日、真木野の神明神社の板碑⑪を調査した。この板碑は、『八千代の歴史資料編』(注1)に、「永仁2年(1294)の断碑で市内二番目に古く、もとは境内のかしの大木に立てかけてあった」とあるが、博物館には拓本がない。現在、この板碑は本殿右横の三殿社の左端に下部をコンクリートで固定されて祀られており、許可をいただ

いて、狭い祠内に手だけ入れ窮屈な姿勢で拓本を採った。正応6年銘板碑は拓本のみで実物の現存が確認されていないので、この永仁2年銘板碑が現存する市内最古の年銘の板碑となる。いずれにせよ、真木野の板碑3基は種子板碑であり、題目板碑ではない。

⑩ 種子(阿弥陀一尊)板碑 No.14 断碑 種子と蓮座と「正應六年七月日」の銘 56×24cm 種子は蓮座の左上に斜めに貫くキリクの字の一部が確認できる。

⑪ 種子板碑 No.16 断碑 蓮座と「永仁二年二月日」の銘 54×29cm 蓮座の上には種子キリク一字があったと思われる、阿弥陀一尊種子板碑と推定できる。

図3 平戸・真木野の板碑拓影 (縮尺1/75)



5. 博物館蔵の小池浅野七男家畑地の板碑調査

2023年6月14日と21日に、八千代市立郷土博物館で、小池の浅野七男家畑地の15基と平戸台墓地の3基について、館蔵の板碑実物と拓本、『市史』(注1)データとの照合作業を行った。

そのうち浅野家の11基と平戸台3基の板碑14基は改めて拓本を採って翻刻し、板碑実物のない浅野家の⑩No.7は館蔵の拓本と『市史』データの翻刻との照合を行った。

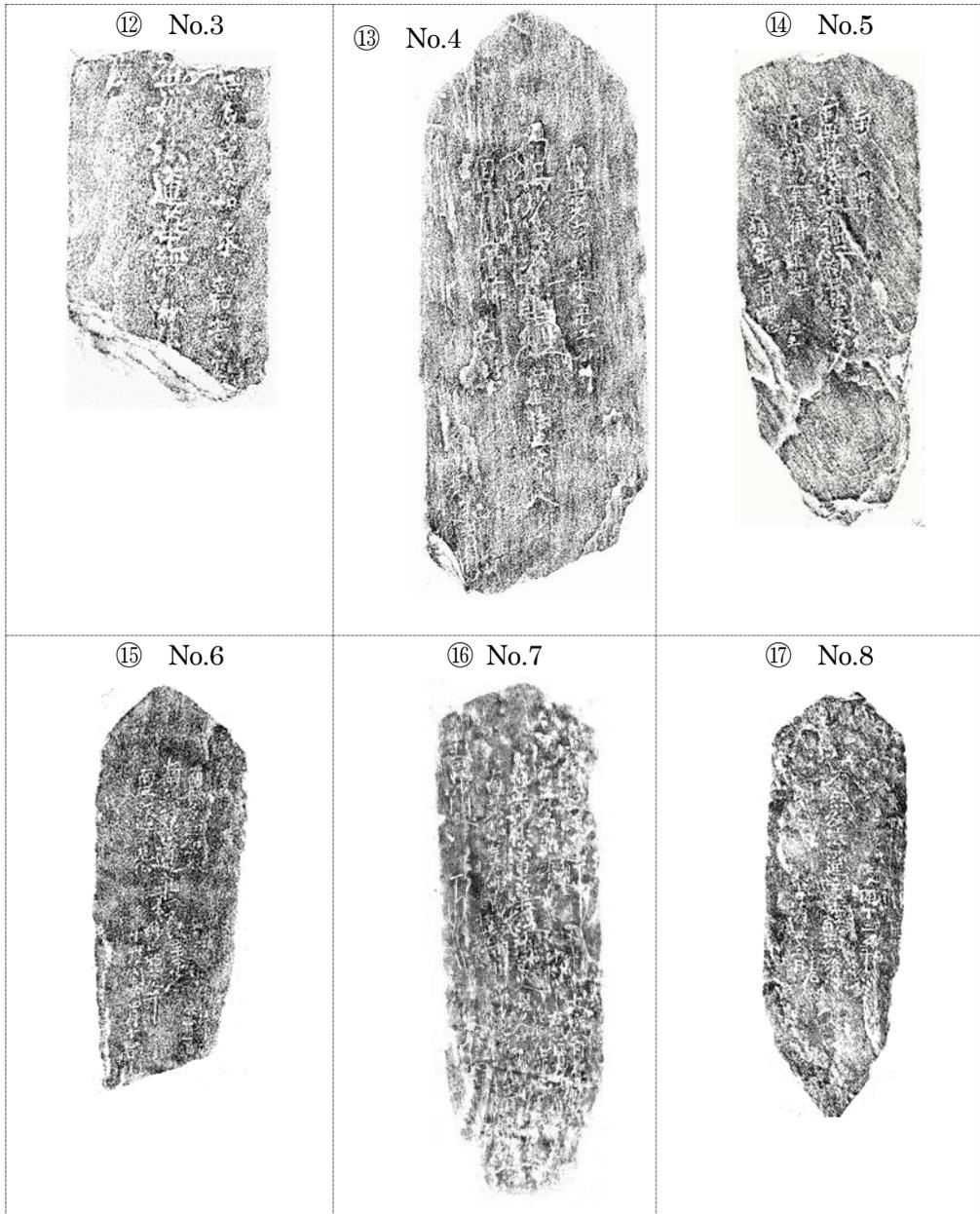
『市史』データにあるNo.1・2・9は板碑実物ならびに館蔵拓本との比定ができず、また、⑭・⑮・⑯の3基は該当する『市史』データと拓本が確認できなかったため、新発見の板碑とした。この3基は一見、無刻板碑と思われていたもので、摩耗した銘文の判読は困難を極め、翻刻には早川正司氏と野口達郎氏のご指導をいただいた。

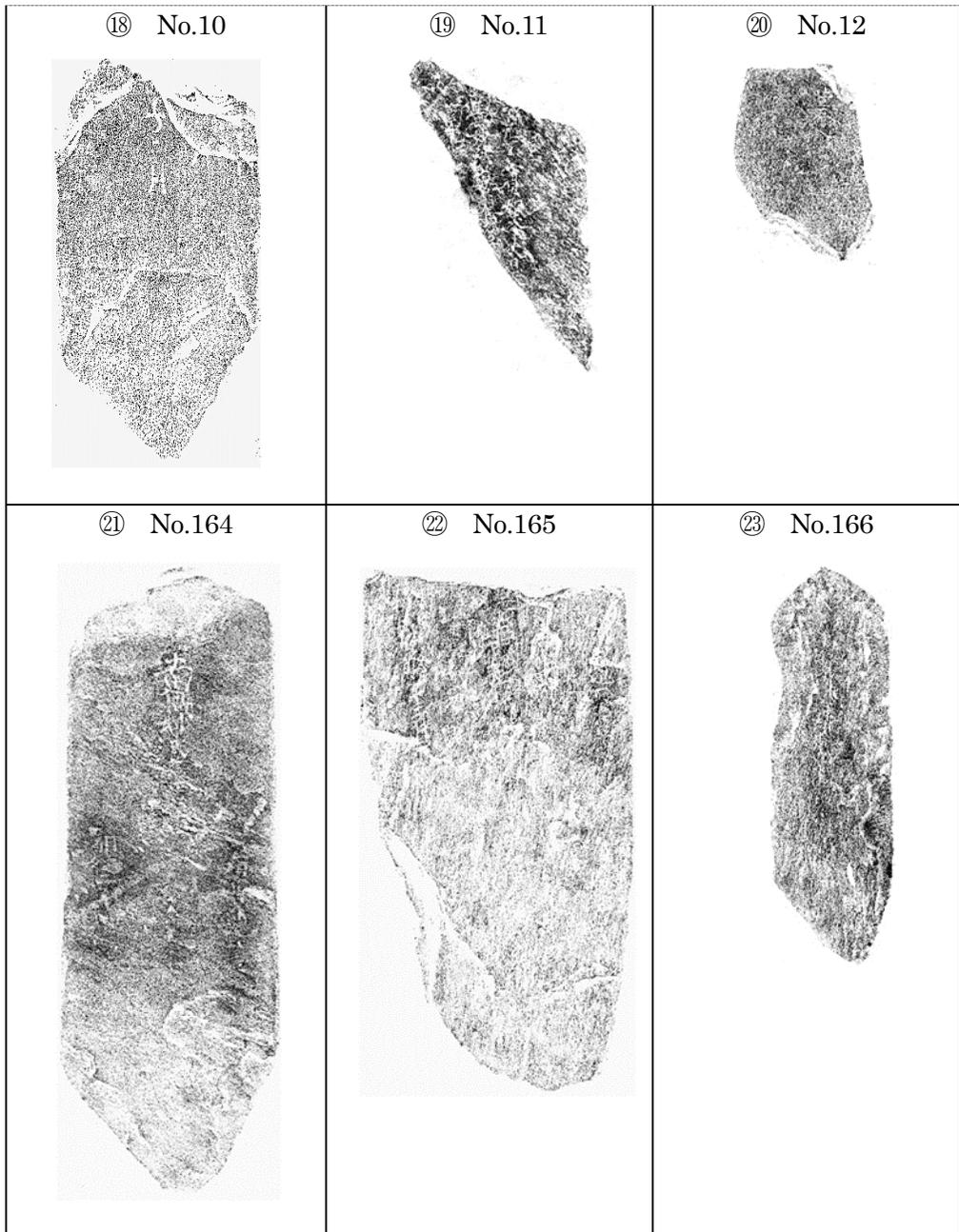
⑫ 題目(首題両尊)板碑 No.3 断碑 「嘉吉二」(1442)の銘 37×21cm

⑬ 題目(曼荼羅)板碑 No.4 完形 「応[仁]三年己丑二月」(1469)の銘 67×26cm

- ⑭ 題目(曼荼羅)板碑 No.5 完形 「文明六年午甲二月」(1474)の銘 49×19cm
 ⑮ 題目(曼荼羅)板碑 No.6 完形 「永正十一年 四月十四日」(1514)「妙正比丘尼(菩提)、十羅刹女に加えて「鬼子母神」の銘が判明 42×15cm
 ⑯ 題目(十界曼荼羅)板碑 No.7 完形 「八季十月十二日」「右志□妙上 比丘尼菩提也」の銘 50×15cm 館蔵拓本のみあり。
 ⑰ 題目(一遍首題)板碑 No.8 完形 文明12年(1473)銘 45×14cm 新たに採った拓本で「法主大□禅尼」を「法秀禅尼」の銘に改めた。

図4 小池の浅野七男家畑地の板碑拓影 (縮尺1/75)





⑱ 板碑下部 No.10 断碑 「年二月日」のみ 年はf形の異体字。年銘の位置から中世前期の種子板碑か？ 44×22cm

⑲ 題目(曼荼羅)板碑 No.11 断碑 両尊のほか「大日天」が残る。南無の無は「无」の異体字 33×12cm

⑳ 題目板碑 No.12 断碑 「法主大聖人」銘 元号は「大戈」か？ 22×12cm

㉑ 題目(一遍首題)板碑 新 No.164 完形「明德二年」(1391)「清□□□居士」の銘あり。67×23cm

② 題目(曼荼羅)板碑 新 No.165 断碑 年銘は「應永十年」(1403?)か?
「鬼子母神 十羅刹女」の銘あり。 56.0×28.0 cm

③ 題目(一遍首題)板碑 新 No.166 完形 「永正七年」(1510) 銘 61×19cm

6. 博物館蔵の平戸台墓地の板碑調査

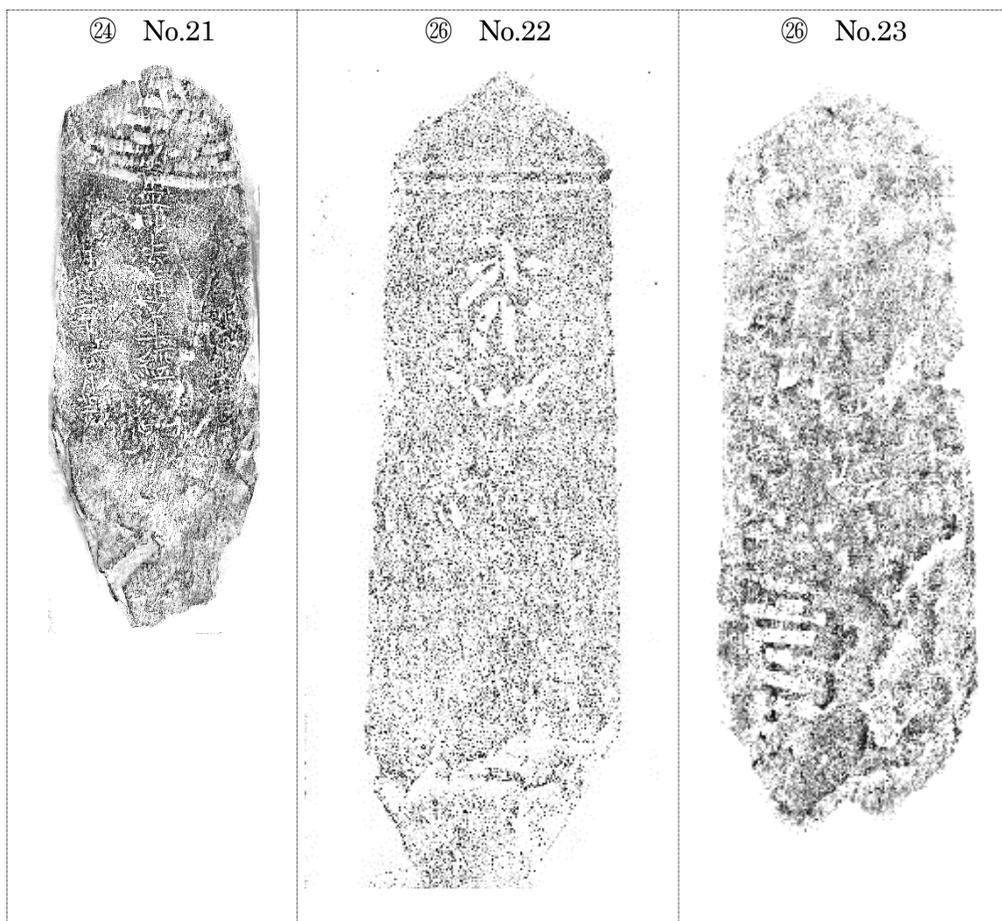
2023年6月14日と21日に、小池の浅野家の板碑11基とともに、平戸台墓地の板碑3基のうち②No.21の拓本を採り直し、他は館蔵拓本と『市史』のデータとの照合を行った。

② 題目(一遍首題)板碑 No.21 完形 「明德三年壬申七月廿二日」(1392)「為悲母[]/南無妙法蓮華經法/孝子/敬白」の銘 41×17cm

⑤ 種子(阿弥陀一尊)板碑 No.22 完形 貞和二年(1346) 銘 二条線 キリク 蓮座 花瓶あり。68×22cm

⑥ 題目(一遍首題)板碑 No.23 完形 「八月六日」[]/南無妙法蓮華經/[]の銘 64×23cm

図5 平戸台墓地の板碑拓影 (縮尺1/75)



7. 八千代市内日蓮宗地域の有刻板碑集成

今回、佐山妙徳寺・真木野神明社・小池妙光寺・平戸の染谷家の現地調査に加えて、博物館館蔵の小池浅野家・平戸台墓地の板碑資料の照合作業を行い、八千代市の有刻板碑 165 基のうち日蓮宗地域 40 基のデータを集成することができた。

文献データについては、『八千代市の歴史』昭和 54 年刊（注 4）と『市史 資料編』（注 1）のほかに、八千代市の板碑データが記載されている資料として『千葉縣史料 金石文篇』（注 5）の記載データと照合して一覧表を作成、館蔵の拓本や新たに採った拓影との照合を行った。

表 2 の一覧表（次ページ以降に記載）は日蓮宗地域の 40 基の板碑データ、表 1 はこの 40 基を主尊による分類と紀年銘で集計した表である。

日蓮宗地域では、鎌倉時代から南北朝時代、種子板碑が先行し、室町時代から題目板碑となる。この地域が中山法華経寺領となったのは元徳 3 年（1333）で、題目板碑の登場はその 60 年後であり、日蓮宗への改宗は緩やかにおこなわれたと推定される。

題目板碑では「南無妙法蓮華経」の一遍首題が先行し数も多いが、首題両尊や曼荼羅などの題目板碑も戦国時代まで造立される。

市内では⑩No.6 小池浅野家の題目板碑の永正 10 年（1514）年銘が最終で、日蓮宗以外の地域でもその前年ごろに一斉に、板碑の造立を終了する。

表 1 八千代市日蓮宗地域の板碑の種類と時代

主尊による分類	基数	紀年銘	
種子板碑（阿弥陀如来）	7	1293～1346	
題目板碑	一遍首題	16	1392～1510
	首題両尊	4	1401～1470
	曼荼羅	10	1403～1514
不明	3		
計	40		

注

1. 「第二章中世 九金石文」『八千代市の歴史 資料編 原始・古代・中世』八千代市 1991 年
2. 蕨由美 「『八千代市の歴史 資料編』未掲載の板碑データ 2 - 下高野（補遺）& 萱田君塚家墓地・小池妙光寺の板碑について -」 『史談八千代』 第 47 号 2022 年
3. 「第三篇 市域の板碑」『八千代市の歴史 通史編 上』 八千代市 2008 年
4. 「第三章中世第三節信仰のあと 板碑」『八千代市の歴史』 八千代市 1979 年
5. 『千葉縣史料 金石文篇』 三分冊 千葉県史料調査会 1975～1959 年

表2 八千代市日蓮宗地域の板碑集成一覧表

No.	地区	所在	高さ cm	現況	分類	種字・題 目種類	銘文	造立年月日 (銘文)	西暦
1	小池	浅野七男 家畑地	61.0	完形	題目	首題両尊	南無妙法蓮華經 南 無大聖人／寶如來／ 迦如來	応永八年三月 十六日	1401
2	小池	浅野七男 家畑地	26.0	断碑	題目	曼荼羅	□□妙蓮口／多寶如 來 鬼子母神／妙法 蓮華經法主大／迦牟 尼佛十羅刹女	應永十二 []	1405
3	小池	浅野七男 家畑地	37.0	断碑	題目	首題両尊	無多寶如來／無妙法 蓮華經 妙法／[] 迦牟尼佛	嘉吉二 / [正]月	1442
4	小池	浅野七男 家畑地	67.0	完形	題目	曼荼羅	南無多寶如來 鬼子 母神／南無妙法蓮華 經 南無法主大聖人 ／南無釈迦牟尼仏 十羅刹女／敬白	応[仁]三年己 丑二月	1469
5	小池	浅野七男 家畑地	49.0	完形	題目	曼荼羅	南無[多]寶如來／南 無妙法蓮華經 南無 法主大聖人／南無釈 迦牟尼佛／十羅刹女 ／施主	文明六年甲午 二月時正	1474
6	小池	浅野七男 家畑地	42.5	完形	題目	曼荼羅	鬼子母神／南無多寶 如來／法主大聖人／ 南無妙法蓮華經／妙 正比丘尼(菩提)南無 釈迦牟尼仏／十羅刹 女	永正十一年 四月十四日	1514
7	小池	浅野七男 家畑地	53.0	完形	題目	曼荼羅	大持国天王(不動明 王) 大広目天王／大 日天王鬼子母神／南 無多寶如來 南無文 殊師利菩薩 右志口 妙上／比丘尼菩提也 ／南無妙法蓮華經 南無法主大聖人／南 無釈迦牟尼仏 南無 普賢菩薩菩提／大日 天王十羅刹女／大毘 沙門天王(愛染明王) 大増長天王	[八]季十月十 二日	
8	小池	浅野七男 家畑地	44.5	完形	題目	一遍首題	南無妙法蓮華經 法 秀／禪尼	文明十二年／ 六月廿三日	1480
9	小池	浅野七男 家畑地	53.5	完形	題目	一遍首題	南無妙法蓮華經 / 右為逆修七分全得也	延徳二年壬午 三月 日 敬白	1490

10	小池	浅野七男 家畑地	43.5	断碑					年二月日	
11	小池	浅野七男 家畑地	33.0	断碑	題目	曼荼羅	南无多宝如来／大日 天／南无妙法蓮華經 ／南無[]			
12	小池	浅野七男 家畑地	21.5	断碑	題目	題目	[]無法主大聖人／ 等 敬白	(大戈) 正月 廿		
13	神久保	東福寺	27.0	断碑				月 日		
14	真木野	妙徳寺	56.0	断碑	阿弥 陀	キリーク		正應六年七月 日	1293	
15	真木野	妙徳寺	40.0	断碑	阿弥 陀	キリーク				
16	真木野	神明社	54.0	断碑	阿弥 陀	蓮座		永仁二年二月 日	1294	
17	佐山	妙福寺	54.0	完形	題目	曼荼羅	南無多宝如来 鬼子 母神／南無妙法蓮華 經法主大聖人／南無 釈迦牟尼佛 十羅刹 [女]／敬白	明應七年二月	1498	
18	佐山	妙福寺	48.0	断碑	題目	一遍首題	[]妙法[]／ 蓮華經	[]年十月 []		
19	佐山	妙福寺	17.0	断碑	題目	一遍首題	蓮華			
20	佐山	妙福寺	42.5	断碑	阿弥 陀	キリーク				
21	平戸台	平戸台墓 地	51.0	完形	題目	一遍首題	為悲母[]／南無 妙法蓮華經法／孝子 ／敬白	明德三年壬申 七月廿二日	1392	
22	平戸台	平戸台墓 地	73.0	完形	阿弥 陀	キリーク		貞和二年 []／ []	1346	
23	平戸台	平戸台墓 地	69.0	完形	題目	一遍首題	[]／南無妙法蓮 華經／[]	八月六日		
24	島田	鈴木揚雄 家	50.0	完形	阿弥 陀	キリーク				
25	島田	鈴木揚雄 家	50.0	完形	阿弥 陀	キリーク				
26	島田	鈴木揚雄 家	51.0	完形	題目	一遍首題	南無妙法蓮華經			
27	島田	鈴木揚雄 家	56.0	完形	題目	一遍首題	南無妙法蓮華經			
28	島田	鈴木揚雄 家	50.0	完形	題目	一遍首題	南無妙法蓮華經			
29	桑納	桑納墓地	72.0	完形	題目	一遍首題	[南無妙法蓮華]經			

137	平戸	染谷正行家	48.5	断碑	題目	曼荼羅	大持国天王(不動明王)/大日天王 鬼子母〔 〕/南無多寶如来/南無妙法蓮華經/南無釈迦牟尼佛/大日天王 十羅刹〔 〕/大〔 〕 (愛染明王)		
138	島田台	間見穴遺跡	31.0	断碑	題目	一遍首題	南無妙法蓮華經		
139	島田台	間見穴遺跡	46.0	完形	題目	一遍首題	南無妙法蓮華經		
140	島田台	間見穴遺跡	27.5	断碑	題目	一遍首題	南無妙法蓮華經		
144	小池	妙光寺	53.5	完形	題目	曼荼羅	大日天王 孝子敬白/南無无邊行菩薩 南無大梵天王 鬼子母神/南無上行菩薩 南無舍利弗尊者等/南無多寶如来 南無文殊師利菩薩/南無妙法蓮華經 南無法主聖人/南無釈迦牟尼佛 南無弥勒菩薩/南無淨行菩薩 南無釋提桓因 十羅刹女/南無安立行菩薩 大月天王 妙法比丘尼石佛也	延徳四年(異体字) 五月廿三日	1492
145	小池	妙光寺	44.6	完形	題目	首題兩尊	南無多寶如来/南無妙法蓮華經/南無釈迦牟尼佛	文明五年 [癸] 巳八月	1473
146	小池	妙光寺	40.5	断碑	題目	首題兩尊	〔 〕/〔 〕蓮華經/南無釈迦牟尼佛/過[去]妙日比丘尼/敬白	文明二年十月日	1470
147	小池	妙光寺	36.5	断碑	題目	一遍首題	〔 〕/南無妙法蓮華經	應永廿九年十月二日	1422
164	小池	浅野七男家畑地	67.0	完形	題目	一遍首題	清〔 〕居士/南無妙法蓮華經法	明徳二年未口	1391
165	小池	浅野七男家畑地	56.0	断碑	題目	曼荼羅	口道〔 〕/口子母神/〔 〕蓮華經/十羅刹女	應永十年二月 [二日]	1403
166	小池	浅野七男家畑地	42.0	完形	題目	一遍首題	南無妙法蓮華經法 口道〔 〕	永正七年 庚口	1510

No.137～166 は、『市史』(注1) にないデータ

「一遍首題」は「南無妙法蓮華經」の七字題目。「首題兩尊」は題目に多宝如来と釈迦牟尼仏を加える。

「曼荼羅」は首題兩尊に法主大聖人・四天王・十羅刹女・鬼子母神・諸菩薩・明王などを加える